

WPI / Thomson

AN - 1982-29525E [15]

AP - JP19800113999 19800821

CPY - HIEJ

DC - D15 E36

DCR - [1] 129798 USE; 131652 USE; 131663 USE; 2903 USE; 63 USE; 89827 USE;
89828 USE; 89837 USE

DR - 1278-U 1502-U 1711-U 1819-U 1895-U

DW - 198215

IN - YAMAZAKI T; YOSHIDA T

M3 - [01] B115 B701 B713 B720 B815 B831 C101 C108 C800 C802 C804 C805 C807
M411 M720 M750 M903 M910 N163 N421 N422 Q431 Q437
- [02] A220 A940 C009 C100 C730 C801 C803 C804 C805 C806 C807 M411 M720
M750 M903 M910 N163 N421 N422 Q431 Q437
- [03] A220 A940 C017 C100 C730 C801 C803 C804 C805 C806 C807 M411 M781
M903 M910 N163 Q431 Q437 Q508 R023
- [04] A220 A940 C101 C108 C550 C730 C801 C802 C804 C805 C807 M411 M781
M903 M910 N163 Q431 Q437 Q508 R023
- [05] A220 A940 C106 C108 C530 C730 C801 C802 C803 C805 C807 M411 M781
M903 M910 N163 Q431 Q437 Q508 R023

MC - D04-B07 D04-B09 E31-K02 E34-D

PA - (HIEJ) HITACHI PLANT ENG & CONSTR CO

PN - JP57038985 A 19820303 DW198215

PR - JP19800113999 19800821

XIC - C01B-025/00; C01B-025/32; C01F-011/00; C01F-011/22; C02F-001/58

AB - Process is described for removing F and phosphoric acid from a relatively small amt. of a 1st soln. (I) contg. a high concn. of F and phosphoric acid and a relatively large amt. of a 2nd soln. (II) contg. a low concn. of F and phosphoric acid. Method comprises (1) adding a soluble Ca cpd. to (II) at pH 4-12 to ppt. an insoluble salt of F and phosphoric acid; (2) dissolving sepd. pptd. salt in (I) adding soluble Ca cpd. to the resulting soln. at pH 1-3 to ppt. an insoluble F cpd. and sepg. the F cpd. from the soln.; and (3) adding soluble Ca cpd. to sepd. soln. at pH 4-12 to ppt. an insoluble phosphate. The soluble Ca cpd. is Ca(OH)2, CaCl2 or CaCO3.

ICAI - C01B25/32; C01F11/22; C02F1/58

ICCI - C01B25/00; C01F11/00; C02F1/58

INW - YAMAZAKI T; YOSHIDA T

IW - TREAT WASTE WATER CONTAIN FLUORINE PHOSPHORIC ACID ADD SOLUBLE CALCIUM COMPOUND

IWW - TREAT WASTE WATER CONTAIN FLUORINE PHOSPHORIC ACID ADD SOLUBLE CALCIUM COMPOUND

NC - 1

NPN - 1

OPD - 1980-08-21

PAW - (HIEJ) HITACHI PLANT ENG & CONSTR CO

PD - 1982-03-03

TI - Treating waste water contg. fluorine and phosphoric acid - including addn. of water-soluble calcium cpd.

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑮ 特許出願公開
⑰ 公開特許公報 (A) 昭58—156654

⑯ Int. Cl.³
E 04 D 13/06

識別記号 廃内整理番号
6922—2E

⑮ 公開 昭和58年(1983)9月17日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑯ 丸樋の補修方法

⑰ 特願 昭57—38985
⑰ 出願 昭57(1982)3月12日
⑰ 発明者 上手正行

東京都杉並区高井戸東2丁目4

番5号ミサワホーム株式会社内

⑮ 出願人 ミサワホーム株式会社
東京都杉並区高井戸東2丁目4
番5号
⑮ 代理人 弁理士 志賀正武

明細書

1. 発明の名称

丸樋の補修方法

2. 特許請求の範囲

丸樋の端面に装着したエンドキャップを取り外し、上記丸樋の開口端に、上記丸樋の長手方向と直交する支軸を有するホルダーを装着し、上記支軸にロール巻きした樋シートを嵌装するとともに上記樋シートの自由端に連続したロープを上記丸樋の途中に取付けたロープフックを利用して、上記丸樋内に張り、ロープを引いて樋シートを丸樋内に引き込み保護シートを剥がして上記丸樋の内面に上記樋シートを貼着することを特徴とする丸樋の補修方法。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、主としてプラスチック製の丸樋の補修方法に関するものである。

丸樋がプラスチック製である場合、日照、風雨によつて経年劣化し、ひび割れなどを起し、そこ

から漏れを生ずることがある。外観的には充分使用に耐えるものであつても、上記のような状況では変換を余儀なくされる。

そこで、この発明は、合成樹脂製などのテープ状シートを丸樋の中に貼着して雨水の漏れを防止することで、補修することを目的としてなされた丸樋の補修方法を提供しようとするものである。

以下、この発明を図示の実施例にもとづいて具体的に説明する。図において、符号1は、樋シートホルダーであり、弧状の梁1a、1aの両端にはアーム1b、1bが形成してあつて、互いに連結されている。また、上記アーム1b、1bの長手方向にホルダアーム1c、1cを連結しており、そこには支軸フック1d、1dが形成されている。この支軸フック1d、1dには着脱可能に支軸2が軸承されている。また、上記梁1a、1aの上にはフック1e、1eが装着されている。また、丸樋Aの一端に取り付けられた緑部材4には、その長手方向に位置移動できるロープフック5が止めねじ8により装着してある。上記ロープフック

5は上記縫部材4に接着されるコ字形の部分5aとこれより下方に延び先端に逆Y字形の受け5bを有するフックアーム5cとを具備している。また、上記丸橋Aの補修部に接着される橋シート6は、一面に接着用接着面を有するシート本体6aと上記接着面を保護するためそこに接着させた保護シート6bとを具備するものでロール巻きされており、その自由端にはロープ7が連繋してある。

このような治具および橋シートを丸橋に取り付けるための手順は次のようである。

- (1) 先ず、丸橋Aの端に接着したエンドキャップBを取り外し、丸橋内に落葉、腐葉などを除去する。
- (2) 次に上記丸橋Aの開口端に上記ホルダー1をビスなどで接着する。
- (3) また、縫部材4の適当な箇所にロープフック5を固定する。
- (4) 支軸2を橋シート6の巻芯に押送した状態で上記支軸2を支軸フック1d, 1dに係合軸支する。そして、ロープ7を受け5bに沿わせて、一人の作業者がロープ7を張つた状態で保持すると

よつてコーニングする。

この発明は、以上詳述したように、丸橋の端面に接着したエンドキャップを取り外し、上記丸橋の開口端に、上記丸橋の長手方向と直交する支軸を有するホルダーを接着し、上記支軸にロール巻きした橋シートを接着するとともに、上記橋シートの自由端に連繋したロープを上記丸橋の金中に取付けたロープフックを利用して上記丸橋内に張り、ロープを引いて橋シートを丸橋内に引き込み保護シートを剥がして上記丸橋の内面に上記橋シートを接着するので、丸橋内面にヒビ割れを生じた場合、簡単にそれを補修でき、丸橋自体が経年劣化しても、外観美を保つかぎり、使用に耐えさせることができ、耐用年数を増大させることができる。

4 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の一実施例を示す斜視図、第2図は使用態様の斜視図、第3図は端面図、第4図および第5図は丸橋中央における仕事の仕方を示す縦断面図、第6図はエンドキャップを接着した後の仕上げを示す縦断面図である。

共に、他の作業者が保護シート6bをシート本体6aから剥して行く。保護シート6bを剥されつつ、上記橋シート6はロープ7の牽引により丸橋Aの中に引き込まれる。

同様にして丸橋A内に張られた橋シート6を橋の内底面に沿わせ、接着させるのである。

中央にエンドキャップのない場合には、第4図にみられるように、一方から丸橋A内に貼着した橋シート6に重なるようにして他方から丸橋A内に貼着した橋シート6'の端を接着し、これをコーニング橋8によつてコーニングするのである。もし、中央にエンドキャップcのある場合には、第5図にみられるように、その手前で橋シート6および6'を剥らせ、別に用意した橋シートを弧状に湾曲して接着し、コーニング橋8によつてコーニングする。

なお、図中符号9は、橋シート6の切断箇所である。

また、丸橋Aの開口端では、エンドキャップBを挟めた状態で第6図のようにコーニング橋8に

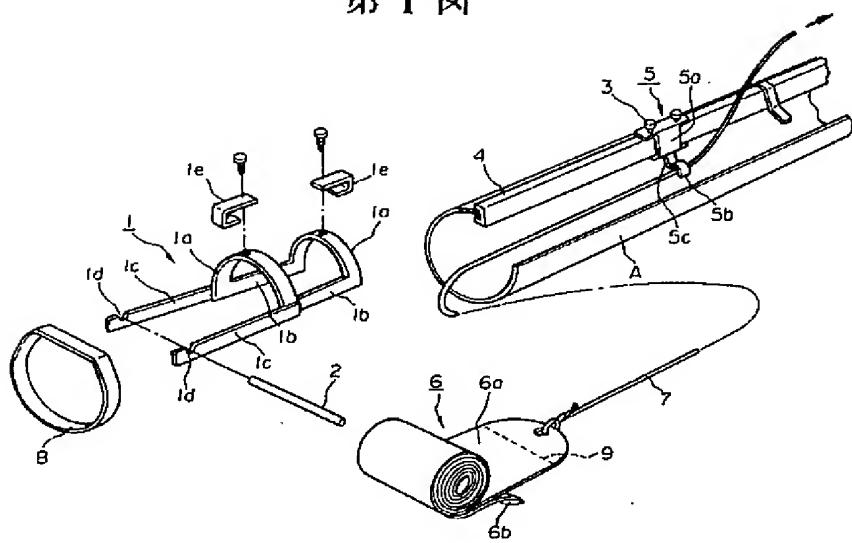
1……橋シートホルダー、2……支軸、3……ロープフック、4……縫部材、5a……シート本体、5b……保護シート、6……ロープ、A……丸橋、B……エンドキャップ。

出願人 キサワホーム株式会社

代理人 弁理士 志賀正武

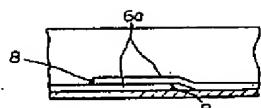


第1図

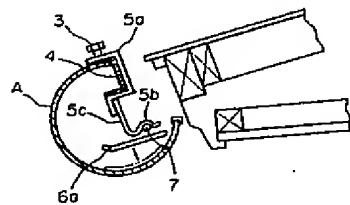


第3図

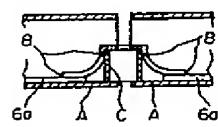
第4図



第2図



第5図



第6図

